

社団法人旭川青年会議所
2011年度広報誌

ナナカマド

2011年(平成23年)12月1日発行



JC・商工会・JAの
若い力が今、1つに。



社団法人旭川青年会議所



まちづくり 座談会

「(社) 旭川青年会議所」「あさひかわ商工会青年部」「JA青年部」

は、旭川の活性化のために活動している青年団体である。

しかし、それが旭川のためにという目的を持ち活動をしているが、メンバー・手法・スタンスも三者三様、更には、一堂に会して旭川の将来について話し合う機会もなかった。今回はJCの呼びかけに三団体のトップが終結。

旭川の将来のために語り合った。

(聞き手)



社団法人旭川青年会議所
理事／まちの魅力推進室 室長

今津 寛介 (34歳)

2009年(H21)副理事長
2007年(H19)理事／地域の力創造委員会 委員長

旭川を元氣にするために!

今津：お集まり頂きありがとうございます。

私たちは日頃旭川で住まいを持ち、働き、それぞれ所属している団体で旭川の活性化のために活動しております。旭川を元氣にするためには、私たち若者が元気になり、盛り上げていかなければならぬと考えていますが、なかなかこのような場も無かったですね。今日は、互いを理解すると共に、互いが歩み寄り出来ることは無いのか、これをきっかけに可能性を模索してみたいと思います。

それでは、よろしくお願ひいたします。

それぞれの青年たちの学び舎

今津：各団体がどのような目的を持ちどのような活動をしているのか、お聞かせください。

本間：はい。1951年日本青年会議所（日本JC）が創設され、現在までに全国704の地域で青年会議所が設立されています。旭川は他の地域に先駆けて7番目の青年会議所として認証されました。先輩方の高い志がうかがえます。私たちは「明るい豊かな社会を作るため」創始の精神を引き継ぎ、青少年教育をはじめ、近年では「たいせつマルシェ」（※P6参照）を年に数回開催しています。また、旭山動物園マイスター・ボランティア（※P7参照）、旭川の夏・冬のまつりの支援などを行っています。

富居：あさひかわ商工会を親組織に40歳までの組織としての青年部があります。内容は地域活性化や福祉活動を目的としています。大きな事業としては、毎年7月に開催される石狩川フェスティバルや、8月に開催される花火 in KAGURA、永山音楽パレード、東旭川盆踊り



社団法人旭川青年会議所
第62代 理事長

本間 公浩 (40歳)

2010年(H22)指名理事／会員開発委員会 委員長
2009年(H21)専務理事

等、旭川のさまざまな地域で活動しています。H20年に合併（東・南・北・永山）し、「あさひかわ商工会」となりました。

山岸：上川の13の農協毎にJA青年部があり、その部長たちで構成されているJA上川地区青年部協議会の会長を務めていました。私の場合はJAあさひかわに組合員として所属しています。「農業を消費者の方にもっと伝えたい」という理念の元、食育を目的として子ども・親を対象に田植えや、畑の作業の体験を行ったり、料理教室を開いたりしています。また、部員同士の体験や経験等の知識の情報共有を図り、旭川を元気付けたい、また盛り上げていこうと活動しています。

あさひかわの宝はすぐそばに

今津：あさひかわは自然にも恵まれ、「安心」「安全」な農作物がありますよね。「たいせつマルシェ」は「北の恵み 食べマルシェ」の原型となっているのですが。

本間：たいせつマルシェは地域経済の活性化を目的のひとつとしてスタートをしました。旭川の農作物は外貨を獲得出来る「宝」だと思っています。ですが、市民はスーパーでは本州産の安い食材に手を伸ばす人が多い。地元には個性豊かな素晴らしい農家さんがたくさんいて、そこで作られるお米や野菜、地場の食材は素晴らしい。やはり棚に陳列されているだけでは伝わらないので、生産者が直接販売することにより、その良さや違いを消費者に伝えることが出来ます。その思いから「たいせつマルシェ」を開催しています。

山岸：我々生産者としても努力はしていますが、JCの皆さんとのような取組はありがたいです



元JA上川地区青年部協議会 会長

山岸 和実 (39歳)

2010年(H22)JA 上川地区青年部協議会 参与
2007年(H19)JAあさひかわ青年部 部長

し、我々ももっと努力しなければいけませんね。
今津：富居部長、商工会青年部として、自分たちしか出来ない旭川に対する貢献とはどういうことが考えられますか。

富居：まつりですね。イベント業者かといわれる時もありますよ。しかし、それでもいいから市民に元気を出してもらいたいと思っています。そこに、市外・道外から参加してもらい、定着しているまつりがあるということを知ってもらいたい。旭川の魅力を発信したいという思いですね。

今津：富居さんが実行委員を務めている花火 in KAGURA は、毎年両神橋のたもとで行われています。山岸さんは雨紛にお住まいですが、地元地域の農産物の販売を行ったことはないですか。

富居：実は、計画をしていたのですが立ち消え

になってしまいました。しかし、出店業者には出品するものの中に、地場産を取り入れてもらいたいというのは伝えてあります。山岸さん来年は是非どうですか。

山岸：PRする場所とするのであれば絶好の場所だと思いますね。売れる売れないではなく、我々地元農家が、どんどん外に赴き消費者と触れ合っていくということはとても大切な機会だと思います。

本間：いいですね。こういう話をすることによって、お互いに何か手を取り合ってやっていけるのは素晴らしいことだと思います。

今津：JCでは、烈夏七夕まつり（※P5参照）を毎年開催し、アイスドーム（※P4参照）などで旭川の冬まつりの支援も行っていますね。

本間：烈夏七夕まつりは今年で第21回を数えました。今年の冬まつりアイスドームでは消防署の協力も頂いて二基のアイスドームを作成し、マジックショーやコンサートも開催し多くの子どもたちの笑顔を見れました。地域が元気になって欲しい、明るいまちになって欲しいという思いで開催しています。商工会青年部やJA青年部の皆様にも是非参加して山車を引いてほしいですね。

今津：組織を運営している中で、課題や悩みはありますか。

山岸：出席してこない会員には電話で声掛けをしたり、コミュニケーションをとるように心掛けています。

本間：どこも同じですね（笑）PRも大変ですね。

富居：PRといえばみんなで行政に声を上げて行くことも大切だと思います。まつりに関しても年々予算が削られている（笑）。元気のない時だからこそ、逆にでっかい祭りをやって地域を盛り上げたいのに。



あさひかわ商工会青年部 部長

富居 典弘 (39歳)

2010年(H22)あさひかわ商工会青年部 副部長
2008年(H20)あさひかわ南商工会青年部 部長

互いの協力で新しい風

今津：今まで我々は接点がなかったんですね。これって非常にモッタナイことだと思うのですが、なぜ今までバラバラに活動してきたのでしょうか。

本間：良いところは真似したり、一緒にやってみたり、会計の問題などが発生するかもしれません、お互いが協力することにより、新しい風が入ってきてガラッと変わるものではないかと思う。

富居：大きい街ではないからこそ、協力していくことがあると思います。

山岸：みんなそうだと思いますが、自分たちの組織をまとめ上げることだけで、精いっぱいになってしまう部分もあります。しかし、こういった形で話が出来れば新しい手法が見えてくるのではないかと思う。このような機会を継続して頂けたらと思います。

今津：お互いが手を取り合って旭川を活性化していくことが、魅力あるまちづくりにも繋がっていきますよね。

本間：JCは団体と団体との橋渡しや、行政と市民との懸け橋となりたいと願っています。待望の旭川駅舎も完成しましたし、駅前広場も新しくなります。更には旭山動物園や安心安全な農産物という財産もある。若い我々だからこそ出来ることが、もっともっとあるはずです。今日は、これから始まる何かのきっかけになったのではないかと思います。

若い力で旭川を盛り上げて行きましょう。今後ともよろしくお願ひします。



第52回
旭川
冬まつり

アイスアートビレッジ2011

コラボレーション 夢の架け橋

2月8日(火)～13日(日)の6日間、来場者も大幅に増え、華々しく開催することができました。

今年のテーマであるアイスアートビレッジ2011『コラボレーション・夢への架け橋』の通り、消防本部・ボランティアスタッフの多大なる御協力を頂き、(社)旭川青年会議所との協働により、初のアイスドーム2基(10m、15m級を各1基)を完成させることができました。

旭川JCと消防本部とボランティアの コラボレーションが実現!!



消防署の多大な
ご協力を頂きました!



まちのまつり
推進委員会メンバー

ドーム内ではさまざまな
イベントを開催



Mr.ゼロによる世界一
下手なマジックショー

ドーム外では

イベントを開催

ICE CAFE BAR
カクテルなど販売
(協力:旭川バーテンダー協会)



北海道教育大学付属旭川小学校
コーラルモルゲンによる合唱

旭川市消防音楽隊
金管アンサンブル

ドームの外では
体験氷彫刻を実施!



親子で楽しめる体験氷彫刻



61名もの
ボランティアが参加!

消防署の多大な
ご協力を頂きました!

まちのまつり
推進委員会メンバー



アイスドームができるまで



始めに土台作成



バルーンを膨らまし



ドームに放水!



-10°C以下で雪を散布



氷の厚みを計測



バルーンを取り除く



仕上げは氷の装飾

旭川ユナイテッドチルドレン 2011年の活動軌跡



ユナイテッドチルドレン(UC)とは「未来の日本・世界を動かす人を創る」を理念とし、それぞれの地域に即した問題に中高生が中心になって取り組み、その活動を通して社会の抱える問題を知り、その解決が出来る人間へとメンバー一人一人が成長する場となっています。旭川ユナイテッドチルドレン(旭川UC)は、2009年度に設立され現在、旭川市内の現役中高生10名のメンバーで活動しています。

旭川冬まつり参画!!



アイストーム
メロンパン
完売!

烈夏七夕まつり

山車が踊り、太鼓がうなり、
踊り子が舞う！

夏は短くも燃えるように暑い、
私たちの愛する輝ける郷土「あさひかわ」。
魅力のある「まち」には魅力のある「まつり」がある。
本年で第21回を数える『烈夏七夕まつり』は、「旭川の顔になる
新しい夏まつりを百年後に伝えよう」と、1988年に企画。実験
やイベントなどを経て、1991年に第1回が誕生いたしました。



『未来につなげる 热い、夏』



烈夏七夕まつりを通じて旭川の子
どもたちが、郷土愛を育むこと…。
それが我々の思い描く「夢」のひと
つです。大勢の観客の前で山車に
乗り、太鼓を叩き、踊りに合わせて
飛び跳ねる。

この体験が未来の旭川を担う子
どもたちの記憶に深く刻み込まれ、
将来まつりを通して旭川を盛り上げ
ていく人材の育成となってくれること
に大きな希望を持っています。



烈夏七夕まつり準備風景



企画・実行委員会を重ねまつりが出来る



札幌南高校提供の行灯を補修



参加者と共に山車補修作業



伝統ある烈夏白半纏を継承

東日本大震災
街頭募金活動

集めたお金は
赤十字社に募金!!

UC夏フェス開催!!

旭川の中高生を
元気にしました!!



たいせつマルシェキッチンスタジアム

メイド・イン・たいせつの食材を使用したマルシェ DE ランチボックス、夏野菜のマルシェカレー、限定マルシェバーガーを販売しました!!



本日のメニューです!

夏野菜のマルシェカレー

限定マルシェバーガー

私たちが「たいせつマルシェ」で目指すのは、「協働」という形です。



9月17日(土)～19日(月)
「たいせつマルシェ2011 in 食べマルシェ」では、多くの人で賑わいました



11月16日(水)～17日(木)
協議会で初の試みである「たいせつマルシェ2011 in 鹿児島」では、「山形屋」百貨店で開催

MARCHE DE TAISETSU

たいせつマルシェ2011

2008年旭川JCが旭川市へ「ものづくり戦略モデル」として提言した地域活性化政策が「たいせつマルシェ」です。

「食」を大切にする古くて新しいライフスタイルの提案を通じて、様々なコミュニケーションの創造を図り、豊かな地域社会の創造に向け、地域社会全体で取り組むための環境づくりを目指して始まりました。

当時はまだ地域マルシェというものが各地で一般化される前での開催であり、上川振興局・旭川市の後援の元「地産地消・スローフード」の隆興と一緒に話題をいただきました。

2010年日本JCからの表彰もさることながら、第二期旭川市政の目玉政策「北の恵み食べマルシェ」に発展しました。



6月16日「たいせつマルシェ協議会」設立宣言

今年2011年「たいせつマルシェ協議会」が発足されました。昨今の地産地消の一般化に伴い開催機能を「協議会」へ市民移管し、マルシェを通じて新たな提案の発信や創造を行うことなり、今後も「協働」活動を行っていきたいと考えています。



たいせつマルシェ準備委員会

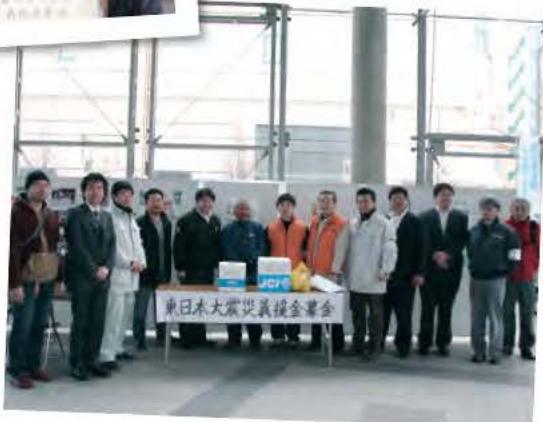
「たいせつマルシェ」は、基本コンセプトとこれまでの展開について担当委員会と出店者の方々で打ち合わせが行われ開催されます。



たいせつマルシェ2011 6月～10月まで計7回開催



みんなが気軽に参加できる 新しい「まちづくり」



東日本大震災義援金の募金活動



クリスマスツリー飾り付け



体験雪像公開！



折り鶴指導



花壇の移植作業

旭山動物園 マイスターボランティア

2006年に活動がスタートし、早くも6年目。オレンジ色のベストを着たスタッフが「生涯学習の場」として、「喜び」や「やりがい」を持って、旭山動物園内を訪れる来園者に対して、サポートを行っています。
 「自分の住むまちがもっと良くなるような活動をしてみたい!」「社会のために何かしてみたい!」
 という方は是非とも参加してみませんか?

詳しいお問い合わせは

(社)旭川青年会議所
 旭川市常盤通1丁目道北経済センタービル5F
 TEL 0166-22-9815(直通) FAX 0166-26-3235
 MAIL room@asahikawa-jc.or.jp

までご連絡ください。



2011年度旭川観光顕功賞受賞



旭山動物園東門ゴミ拾い



高校生のボランティア体験



喜び!



帯広動物園ボランティア協会との交流

やりがい!



学習ホール「ぬりえ展示」



1月第2例会 市長例会

これまで市政との連携で、様々な活動を当青年会議所は行ってきましたが、より連携を強化し、行政のカウンターパートナーとして共にまちづくりを進めていくのが重要と考え、旭川市長として第二期目を迎える西川市長をお招きし開催いたしました。

市長の市政に対する考え方を聞き、これから旭川青年会議所が行っているうとを考えている各種の事業が、市政とどのように関わり、行政との協働によりどのようにまちづくりを行っていくか、当青年会議所メンバーの理事（委員長）と活発に意見交換が行われました。



4月第1例会

夢を実現する力！

～継続する強い意志を作るために～

バンクーバーパラリンピック銀メダリストであり、2005年に日本青年会議所が主催している人間力大賞を受賞された長瀬充氏を講師として迎え、「夢」の実現に向けて前進するために、「継続する力とは何か」についてお話し頂きました。

会員研修であるこの例会で、「成長の鍵」を見つけるためのきっかけづくりを目的のひとつとし、担当である会員開発委員会が考えるコンセプトを自身の実体験から熱く語り、障害を乗り越え目標を達成した過程を詳しく紹介して頂きました。

ONE for ALL. ALL for ONE



6月第1例会 公開例会

私たちの知らない間に忍び寄る
黒船TPPは「開国」か？「壊国」か？
～TPPが地域経済にもたらす影響とは～

プレゼンターに、国際政治経済学者 浜田 和幸 氏を迎えて、「TPP」（環太平洋戦略的経済連携協定）について、国際的な視野から今後起こりうる問題点、また、国内におけるさまざまな分野での影響等をわかりやすく解説・ご講演頂き、地域経済人としてどう行動していくかを考える機会の場となりました。

またディスカッションでは、浜田氏に農業生産法人 夢民村 島 秀久 氏、当青年会議所 理事長 本間 公浩君 を交え、地場の現状とともに、身近な問題を事例にあげながら対談いたしました。

7月第1例会 公開例会 Let's create the "Familication(ファミリケーション)" ～親と子を繋ぐ愛言葉～

担当であるまちの未来創造委員会から「私たちが取り組んできた青少年事業と今年度の着目点」を発表。そして、様々な教育問題の中で「子どものコミュニケーション能力」が重要な課題の一つと捉え、一番身近な問題である「親と子のコミュニケーションの在り方」に焦点を充てました。

講師には「ファミリー・フォーラム・ジャパン」金子耕氏 氏をお迎えし、親と子のコミュニケーションの大切さを、自らの子育て体験を通した話を交えお伝え頂きました。



組織改革特



8月第2例会 今こそ創始の志を胸に、 果てしなく続くストーリー ～この改革の先にあるもの～

今年、全6回に渡り開催してきた「組織改革特別会議」の総括として開催。

組織改革特別会議では

- ・公益法人制度改革に対応した旭川青年会議所方針の検討
- ・委員会の枠を超えた課題の共有と改善
- ・経済環境、社会環境など時代の変化への対応
- ・組織の活性化

上記の課題をまずは全メンバーで共有し、改善のための議論を行いました。



10月第1例会 公開例会 Just Zoo It! ～初めてのマイスター～

旭川市旭山動物園内で市内高校生43名が参加。担当委員会と旭山動物園マイスターボランティアスタッフで作成した、「ボランティア体験プログラム」を高校生と実施しました。

魅力溢れる旭山動物園マイスターボランティアの活動を幅広い世代にも伝え、新世代マイスターボランティアの発掘につなげることがねらいです。

プログラム終了後には、旭川市旭山動物園 坂東元園長に旭山動物園とマイスターボランティアとの関わりや、ボランティア活動についてご講演頂きました。



旭川発!全国へ!!

JC運動の主体は常に「地域」です。

全国のメンバーが、自らが暮らすそれぞれの地域から、国を考え、世界を見つめています。

日本全国に704の各地青年会議所があります。
(社)旭川青年会議所より、全国へ、時には世界へ赴き、世界の平和に向けて積極的にコミットメントしています。



7月9日～10日
第42次 北方領土返還要求
現地視察大会



9月10日～11日 第60回
北海道地区大会 伊達大会



1月22日～23日
公益社団法人日本青年会議所
2011年度京都会議



5月13日
「憲法アクションDays」
全国一斉憲法議論



9月30日～10月2日
第60回全国会員大会
名古屋大会



(社)旭川青年会議所2011年度の活動軌跡



発行者 社団法人旭川青年会議所

〒070-0043

旭川市常盤通1丁目道北経済センタービル5階

TEL(0166)22-9815 FAX(0166)26-3235

発行人 理事長 本間 公浩

編集 まちの魅力発信委員会
委員長 鈴木 慎吾

製作 まちの魅力発信委員会 × Taiji × Ebishi

印刷 株式会社アイリンク

【編集後記】

まちの魅力発信委員会 委員長 鈴木 慎吾

社団法人旭川青年会議所2011年度広報紙「ナナカマド」をお読み頂き、誠にありがとうございました。

この広報誌は、我々青年会議所がこの旭川における「まちづくり」の関わりや、その活動軌跡を外部の皆様に分かりやすく発信するために、手にとってご覧いただけるよう、作成させて頂きました。

多くの方々に、我々のまちづくりにおける活動が少しでも理解され、より身近に感じて頂ければ嬉しい限りです。

最後に、製作にあたり取材や記事作成にご協力頂きました皆様、本当にありがとうございました。

広報誌ナナカマドの由来

1964年、旭川青年会議所は、緑橋通の緑化運動を行い、ナナカマドを植樹しました。ナナカマドの木は、現在ではイルミネーションで美しく飾られ、緑橋通の象徴となっていましたが、この植樹が契機となり、1976年ナナカマドが「旭川の木」として制定されました。

以上のことからナナカマドは旭川青年会議所の歴史を作った木でもあり、機関誌の名前も「ナナカマド」とされました。

2011年度スローガン

「Let's create the dream」

そして、その先にある道程(みち)へ
～改革から実行への第一歩～

社団法人旭川青年会議所
2011年度 第62代理事長
本間 公浩



青年会議所「Junior Chamber」(略:JC)とは

国籍・人種・性別・職業・宗教の区別無く、20歳（旭川JCでは25歳）から40歳までの志の高い青年経済人によって構成されています。日本全国704の地域に約42700人の『修練』『奉仕』『友情』という三信条のもと、率先して行動する仲間がいます。

自分自身を高めるための修練

社会とのつながりが深まる奉仕

ほかでは得られない友情

来たれ、旭川JCへ!!

JCは大きな可能性に向けての自己投資です。
他では得られない信頼関係と真の友情を育みながら、
私たちのまち旭川の未来をつくりあげて行きませんか?
きっと、あなたの将来に大きな可能性を見出してくれます。

旭川JCメンバーアイントビュー



(株)近藤染物工場 常務取締役
近藤 耕介 <平成18年入会>

JC入会をきっかけに「自分が旭川市民であること」に対して、強く意識する機会が増えました。
入会してよかったことは同年代の仲間を知り合えたこと。一つひとつの事業をメンバーと一緒に組み立て、実施した結果、様々な反響や評価を頂けることがやりがいだと感じています。



市川農場 代表
市川 範之 <平成19年入会>

私は取引先からの紹介で入会しました。他の団体にも加入していることもあって当初は断っていましたが、「一生付き合える仲間ができる」という言葉に後押しされて入会を決めました。
昨年度は「たいせつマルシェ」担当の委員長をやらせてもらい、地域活性化に取り組んだことで仕事では得られない自信につながりました。



(株)オイルウェイサービス 代表取締役
鈴木 慎吾 <平成20年入会>

正直、入会するまでJCという組織は良いイメージではありませんでした。
しかし入会後、普段の仕事では味わえない“まちづくり”に対して、同世代の仲間との活動や、外部のたくさんの方との交流をすることで達成感が生まれ、JCに入会したことでの充実感が年々増しています。